

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

個別人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福岡県北九州市

○学校名

北九州市立高須中学校

○学校のURL

<http://www.kita9.ed.jp/takasu-j/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1 学年： 5 学級、 2 年生： 4 学級、 3 年生： 5 学級
【特別支援学級】 1 学級 【合計】 1 5 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 5 1 1 人（平成 2 7 年 9 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 165 人、 2 年生 157 人、 3 年生 189 人 ）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成 2 4 年度文部科学省「人権教育指定校事業」研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「創造」・・・理想を求め、自ら正しく判断し、進んで行動する人間を育てる。
「勤勉」・・・共に力を出し合い、働き合い、導き合う学校風土を育てる。
「友情」・・・すべてが所属感をもち、互いに励まし合い思いやりのある
人間関係を育てる。

（本年度の重点的目標）

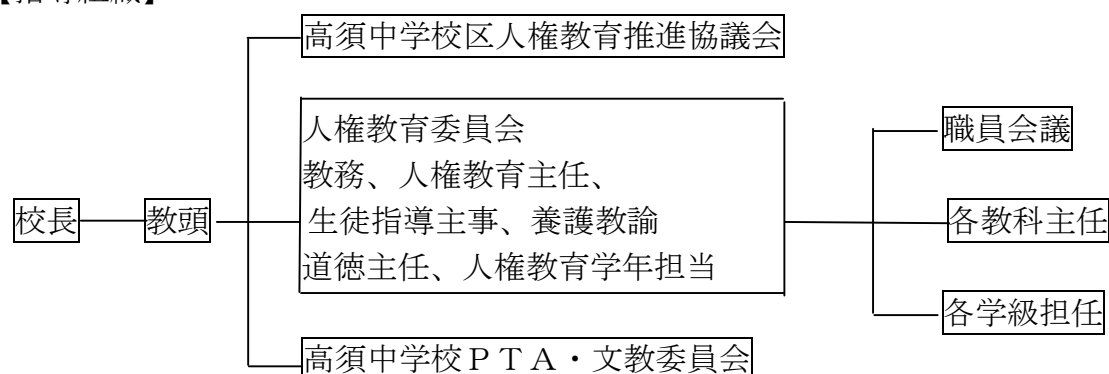
- 対人スキルアッププログラムの実践を通してコミュニケーション能力を高め、自他を尊重する人権感覚を育み、人権意識の一層の高揚を図る。
- 自己を大切にし、他者を認め、大切にすることができる人権感覚を身に付けさせる。
- 人権の意義・内容について理解を深め、人権尊重の精神を育てる。
 - ・ 全教育活動を通して、人権の意義・内容や重要性を理解させる。
 - ・ 人権問題を正しく理解し、保護者や生徒の願いに応える教育を推進する。
 - ・ 平和に関する研修をし、指導に取り組む。

○人権教育に係る取組一コマ

対人スキルアップの授業を実践し、生徒相互の好ましい人間関係づくりを推進する。さらに、2 年生では発展的な取組として、生涯にわたるメンタルヘルスの基礎作りとして自殺予防教育を実施している。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【指導組織】



【年間指導計画】

- ① 差別を差別としてとらえ、差別を許さず、差別に負けない力を持った生徒の育成。
- ② 集団の大切さを認識し、その中で自主的に行動する態度を養い、仲間とともに伸びる学級集団づくりに努める。
- ③ 生徒一人一人の能力、個性を十分に伸ばし、進路指導の充実に努める。
- ④ 平和に関する指導に取り組む。
- ⑤ 教科時間外でも人権意識を高める工夫を行う。
- ⑥ 校内の人権研修を通して、人権意識を高める。
- ⑦ 人権教育ハンドブックを活用して、日常の学校生活での人権感覚を磨く。

【家庭・地域・他校間の連携】

- ① 授業参観や学校開放週間を積極的に設け、「開かれた学校づくり」を目指す。
- ② 家庭・地域との連携を密にし、人権教育の必要性を広める。

【各教科等における人権教育の視点】

- ① 確かな学力の向上を図るために、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、生徒にとって「わかる、できる」を実感できる学習活動を進める。
- ② 理解や習熟に課題のある生徒に個別指導を行う。
- ③ 視聴覚教材等を活用し、興味関心を生かす学習教材の創意工夫を行う。

【研修を充実させるための視点】

- ① 教師自身の人権意識を高めるため、積極的に研修に参加し、資質向上に努める。
- ② 教職員が確かな人権感覚を身に付けるため、「人権教育ハンドブック」等の活用を図る。
- ③ 北九州市対人スキルアッププログラムの授業実践に関わる研修に努める。

【日常的な取組における視点】

- ① 日々の生活の中から生命の大切さを生徒に訴え、互いに認め合い尊重する心の育成に努める。
- ② 学校生活において、常に生徒の行動に目を向け、どのような小さな問題も見逃さず、解決に向けて生徒とともに努力する。
- ③ 家庭と地域との連携を深める。

3. 特色ある実践事例の内容

【自殺予防教育の目標等について】

高須中学校区の青葉小・高須小・高須中学校の3校では、平成24年度より北九州市の研究指定を受け、小・中学校の9か年を通した北九州市対人スキルアッププログラムの構築のため授業実践を行ってきた。そのような中、発展的な内容として、生涯を通してのメンタルヘルスの基礎作りとしての自殺予防教育を実施してきている。

目標としては、生徒の早期の問題認識（心の健康）と援助希求的態度の育成である。自殺の深刻な実態を知らせ、心の危機のサインを理解させる。その上で、心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を学ばせる。さらには、地域の援助機関について学ばせている。

【授業プログラムの進め方】

生徒を直接対象とした自殺予防教育を進めるには、学校内の実施体制の構築が必要である。以下、構築のための流れを示す。

- ① 職員研修〔夏期休業期間中〕→スクールカウンセラーによる「生涯にわたるメンタルヘルスの基礎」職員研修及び自殺予防教育導入に向けての合意形成
- ② 時間設定や実施方法、授業内容についての検討
- ③ 事前アンケートの内容について検討後、実施
- ④ 授業内容について不安がある生徒のスクリーニング
⇒スクールカウンセラーによる個別面接
- ⑤ 授業〔本実践事例〕→スクールカウンセラーと担任又は副任でのティームティーチングの形で役割を分担して行う。
- ⑥ 回収した学習プリントの感想や、心配な生徒について日頃の様子など関係職員と協議⇒必要に応じてスクールカウンセラーによる個別面接
- ⑦ 学習プリントの返却
- ⑧ 授業を含むプログラム全体についての報告→職員研修や生徒指導委員会等

【実践事例】

- 題材「だれにでもころが苦しいときがあるから・・・」
- ねらい

「誰にでも死を考えるほどの苦しいときがあるかもしれないが、そのような気持ちも必ず変わること、周囲の人に話を聴いてもらうこと（支援を得ること）で、苦しい気持ちは楽になる」というメッセージを伝え、生涯を通じて危機に陥った際に「相談すること」の重要性の理解を深める。

- ・ だれにでもころが苦しいときがあること、苦しい気持ちも必ず変わることを知る。
- ・ 苦しいときの対処法のひとつとして「信頼できる人に話を聴いてもらうこと」があることを知り、相手の気持ちを楽にする話の聴き方について学ぶ。

○ 展開

学習内容・活動	指導上の留意点	配時
1. SC 紹介の後、アンケートを想起し、学習の目当てを確認する。		
【目当て】こころが苦しくなった時にどうしたらいいかを学習しよう。		
2. こころのもやもや度チェックをし、解説を読む。 	○リーフレットを配布する。 ○今のこころの状態を意識させ、気付かせる。 ○よい悪いの評価でないこと、こころの状態は時間の経過、環境の変化や周囲の支援で変化するものであることを強調する。	5 分
3. いろいろな「こころのもやもや攻略法」を紹介する。 	○「自分に合ったもやもや攻略法」を見つけることが、大人になってからも大事であることを伝える。 ○「相談する」「友達に話す」という方法もあることを知る。 ○相談することの意義（気持ちが整理できる、見通しが持てるなど）を理解できるようにする。 ○試してみたいもやもや攻略法を考える。	5 分
4. リーフレット 3 ページの「伝えたい 3 つのメッセージ」のページを学習する。	○先生の体験談を聴かせ、3 つのメッセージを確認する。 メッセージ 1：だれにでもこころが苦しくなるときがある。 メッセージ 2：苦しい気持ちも、必ず変わる。	10 分
5. 相談されたときの「話の聴き方」を学習する。 ・聴き方のポイントをまとめる。 ・担任が話し手、SC が聴き手となって見せる。 	メッセージ 3：だれかに相談できる力を持つとう。 ○話の聴き方のポイントをリーフレット 4 ページを使って整理する。 <聴き方のポイント> ・うなずきながらゆっくり聴こう！ ・意見やアドバイスより、ただ黙って聴こう！ ・友達の気持ちになってあたたかく聴こう！	15 分

・生徒同士で話し手、聴き手の役目を経験する。  6. もしも「消えたいぐらい苦しい」と相談されたときはどうしたらいいかを伝える。 7. 相談できる人、場所、方法について知る。 8. 学習のまとめをする。 	○ シナリオを使って、生徒同士で話し手と聞き手となる相談場面を体験させる。 ○ リーフレット4ページを読み、信頼できる大人に言うように伝える。 ○ 相談できる人、場所、方法を具体的に提示し、必要な場合には利用できるように促す。 ○ スライドを使ってまとめる。 ・ メッセージ1～3 ・ 自分に合ったもやもや攻略法 ・ 聴き方のポイント ○ ○振り返りと感想を書く用紙に記入後、回収する。	3分 2分 10分
---	--	--

相談されたときの「話の聴き方」の学習シナリオ ＜悪い聴き方＞ A：何か、元気ないね？ どうしたん？ B：いや～、別に。 A：いつもと違うやん。何かあった？ B：それがさ、英語のテストのことで、相当親から言われて・・・ A：へえ、そうなん。点数悪かったん？ B：塾行きよるのにこんな点取るなら、お年玉から塾代返せとか言われたんよ。 A：ふ～ん。 B：努力したって結果に表れんことだってあるやん。なのに、努力が足りん、お金がもったいない、情けない、こんなはずじゃなかった・・・とか言われるけね。 A：え、でも勉強してなかったんやったら、しょうがない？ B：一応勉強したんよ。でも・・・。どうしたらいいんやろ？ A：勉強するしかない？ B：努力が足りんのやろか？ A：結果が出らんやったらそうかもしれんね。 B：でもさ、結果に表れんことだってあるよね？ A：うーん。どうかな。よう分からん。 B：そうなん・・・。でもさ、いつも結果に表れるんやったら、みんな100点取れるし、みんな1番になるやん？
--

A：いやいや、それは 言いすぎやろ。

B：そっか……。私の頑張りが足らんのかあ。

<よい聴き方>

A：何か、元気ないね？ どうしたん？

B：いや～、別に。

A：いつもと違うやん。何かあった？

B：それがさ、英語のテストのことで、相当親から言われて・・・

A：そうなん。

B：塾行きよるのにこんな点取るなら、お年玉から塾代返せとか言われたんよ。

A：へえ・・・。

B：努力したって結果に表れんことだってあるやん？なのに、努力が足りん、お金がもったいない、情けない、こんなはずじゃなかった・・・とか言われるけね。

A：そうやったんや。大変やね。

B：どうしたらいいんやろ？

A：う～ん。どうしたらいいんかねえ。

B：努力が足りんのやろか？

A：よく頑張ったやん。努力が足りんことないよ。

B：結果に表れんことだってあるよね？

A：あるよ。いっぱいあると思う。

B：そうよね。いつも結果に表れるんやったら、みんな100点、みんな一番になるやんね！

A：そう、そう。

B：次のテストで頑張ろう。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

【課題、課題が生じた背景】

事前調査で、本校には、こころが苦しくなったときに、誰にも相談しない生徒が半数近くいることが分かった。自殺予防について、生徒に一人で悩まず、誰かに相談できる力を持たせる必要がある。また、本当に「自殺をしたい」と思うぐらい苦しんでいる生徒がいる可能性がある。そのような生徒の存在を把握して実施する必要がある。

【課題に対する対応】

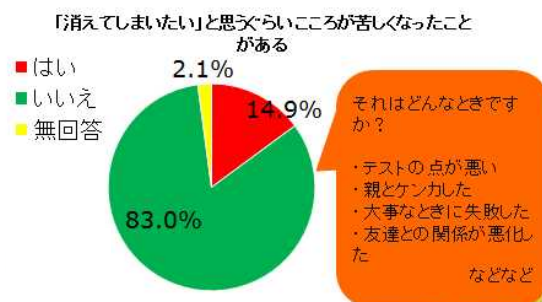
「自殺をしたい」と思うぐらい苦しんでいる生徒の存在の把握のために事前調査「こころのもやもやアンケート」を実施し、「消えてしまいたい」と思う生徒を把握する。そして、その生徒には、スクールカウンセラーが面談を行い、自殺予防の授業を受けさせるかどうかを、本人の意思確認も含めて聞き取り判断する。また、授業を受けた生徒についても事後調査を行い、フォローアップする。授業で用いる資料については、北九州市立精神保健福祉センターが作成したリーフレット「だれにでも、こころが苦しいときがあるから・・・」や北九州市対人スキルアッププログ

ラムの「上手な聴き方」を用いて、生徒に相談することのよさに体験を通して気付かせる。なお、生徒が使用するアンケート、資料には一切「自殺」という言葉を用いず、「こころのもやもや度」、「こころが苦しいとき」、「消えてしまいたい」という表現で刺激の少ない言葉を使用するようにする。

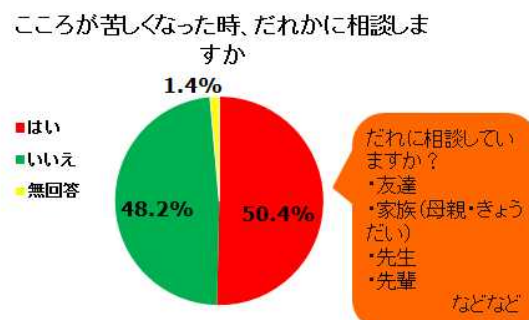
5. 実践事例の実績、実施による効果

【事前アンケート】

こころのもやもやアンケートの集計結果



こころのもやもやアンケートの集計結果

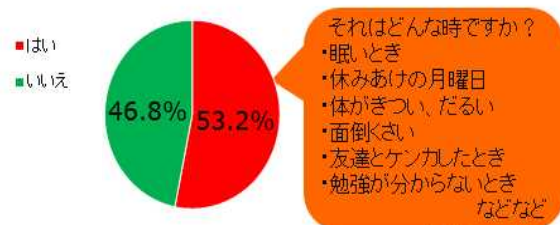


こころのもやもやアンケートの集計結果

○ みんなに「こころのもやもやアンケート」をしました

○ 結果は・・・

朝、「学校に行きたくないなあ」と思うことがある



事前アンケートから、心が苦しくなったとき、誰にも相談しない生徒が半数近くいることが分かった。

【事後アンケート、感想】

○ 今日の学習で心に残ったことは何ですか。(複数回答可)

- ・ もやもや度チェック 38%
- ・ もやもや攻略法 47%
- ・ 3つのメッセージ 18%
- ・ 友達の話の聴き方 62%
- ・ もしも深刻な気持ちを聴いたときにどうしたらいいか 21%
- ・ 相談する場所や人について 6%
- ・ その他(全部) 3%
- ・ 心に残ったことはない 3%

○ 今日の学習を終えて、どんなことを感じましたか。

- ・ とても役に立った 59%
- ・ 少し役に立った 32%

- ・ あまり役に立たなかった . . . 3 %
- ・ 役に立たなかった . . . 3 %
- ・ よくわからなかった . . . 3 %

○ 今日の学習を終えて感じたことや、今の気持ちを書いてください。

「他の人の攻略法を見て、まねしようと思った。」

「もやもや度チェックで、自分の状態がわかりました。」

「相談されたときに、どういう聞き方をすればよいのかがわかった。」

「アドバイスをしなくて、聞くだけでも、相談する方は楽になるのだとわかった。」

「相談できる人は、まわりにたくさんいるんだと思いました。」

「相談を受けるということは、信頼されていることだと思いました。」

「相談しない人が40%いたので、その人たちの話を聞いてあげたいと思った。」

」

6. 実践事例についての評価

【取組についての評価、及びそう評価する理由】

生徒の感想から、「授業を受けてよかった」とほとんどの生徒が肯定的にとらえていることが分かった。アンケート結果からも「役に立った」は「少し」も含めると90%を超え、その内容で最も多いのが「友達の話の聞き方」であった。また、「もしも深刻な気持ちを聴いたときにどうしたらいいか」も4番目に多かった。このことから、生徒を直接対象として自殺予防教育を行うことは、生徒が悩んでいる友人に気付き、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなぐという、ゲートキーパーとしての役割を学ぶきっかけになったことが分かった。

折しも今年度8月に行われた「いじめ防止サミットin北九州」で、「みんながスクールカウンセラージュニアになろう」が採択された。具体的には、

- ・ まわりの仲間を気にかけてよう。「元気がないな」「一人で大丈夫？」
- ・ 相手の気持ちになって、話を聴こう。「聴き取り名人になろう」
- ・ 苦しいときは、聴いてもらおう。「聴いてもらうだけで、気持ちが軽くなる」

と行動目標もあがったが、自殺予防教育の取組はいじめ防止にもつながっていることが分かる。本実践は、「価値的・態度的側面」「技能的側面」「知識的側面」からの指導がバランスよく構築されており、自他の人権を守るための実践力や行動力の育成に効果があることが明らかになった。

【現在、実施に当たって課題と感じていること】

来年度以降も、北九州市対人スキルアッププログラムを実施しながら、特定問題予防教育として自殺予防教育だけでなく、心身の発達に応じて薬物乱用防止、喫煙防止、性教育、いじめ防止、デートDV防止等にも年度当初に計画し、継続的に実施する必要がある。

自殺予防教育の取組は平成24年度から実施して4年目を迎える。これまではスクールカウンセラーとのティームティーチングで授業をしていたが、来年度からは、担任がT1、副任がT2の形でも実施できるようにする。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

北九州市立高須中学校

中学生の発達の特性を踏まえ、自他理解の在り方を学ぶ「対人スキルアップ」の実践を通じたコミュニケーション能力の援助指導を通じて、生徒個々の豊かな人権感覚の醸成を目指した取組事例である。校内の組織体制の充実、年間指導計画の作成、家庭・地域・他校間の連携、各教科等における人権教育の視点の明確化、教職員研修の充実など、必要かつ十分な条件整備が研究の推進を促している。その成果として、メンタルヘルスの基礎作りとしての自殺予防教育の実施とその授業プログラムの具体的な取組が注目に値する。2校の小学校とも共同し、9年間を通じた実践である。児童生徒の日常的な心の健康と援助希求的態度の育成を図り、心の危機に陥った自分自身や友人への関わり方を具体化したり、スクールカウンセラーとも連携し、授業内容の検討や事前アンケート分析、不安をもつ生徒のスクリーニング・個別面接を展開したりするなど、取組の工夫がみられる。